

Arcserve RHA※を使って ローカルアカウントのACLを レプリケーションする方法※※

v1.1

※ 本資料ではArcserve Replication/High Availabilityの略称として「Arcserve RHA」と表記します。

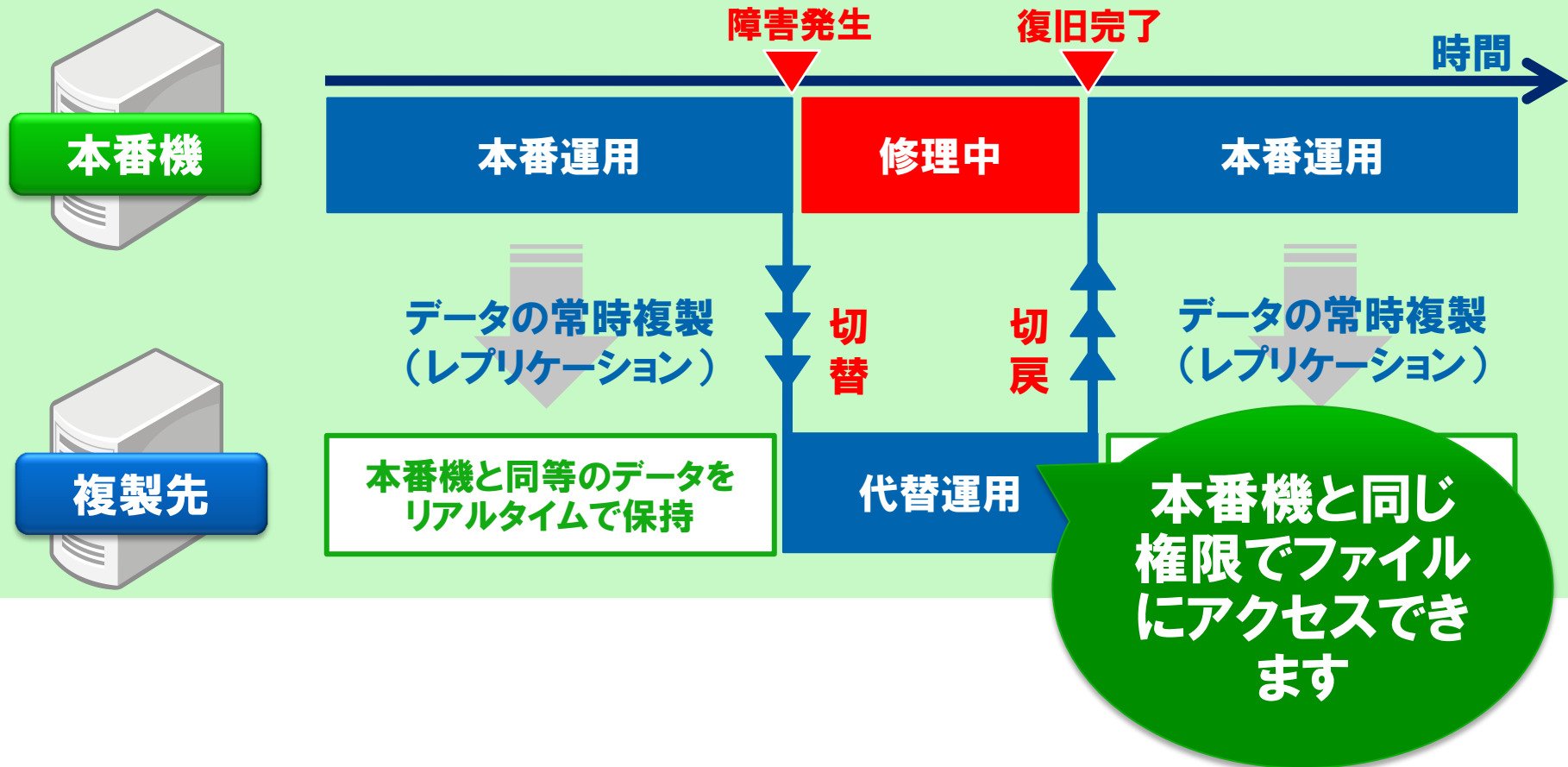
※※ 本資料はワークグループ環境での利用を想定しています。Active Directory ドメインのメンバーサーバ間のレプリケーションでは、初期設定のままでドメインアカウントのACLがレプリケーションされるため、本資料の手順を踏んでいただく必要はありません。

arcserve®
assured recovery™

アクセス権（ACL）のレプリケーション

こんな時に
使えます！

- ファイルサーバの障害時にはレプリカを代わりに使いたい
- でも、ファイルサーバはActive Directoryドメインに参加していない



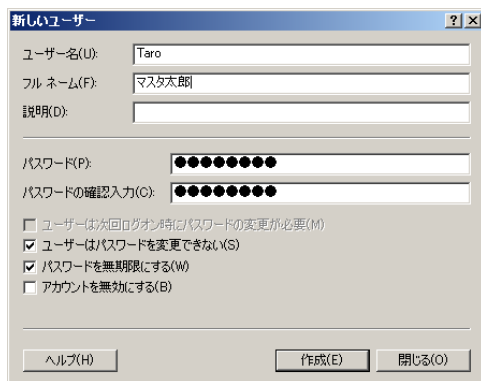
3ステップでローカルアカウントのACLをレプリケーション！

ローカルアカウントのNTFSアクセス権(ACL)をレプリケーションするための3ステップ

Step1: RHA r16 SP2をインストール



Step2: レプリカに同名のアカウントを作成



Step3: シナリオプロパティを設定



Step 1: Arcserve RHA r16 SP2 をインストール

- ローカルアカウントのACLをレプリケーションする機能はArcserve RHA r16 SP2の新機能です。

※ 従来バージョンではActive DirectoryのドメインアカウントのACLのみをサポート。

※ 現在ご利用のArcserve RHAのバージョンは以下のURLの手順でご確認ください。

<http://www.casupport.jp/resources/babxo16win/tec/023010116.htm>

- 以下のURLから r16 SP2をダウンロードしてください。

<http://www.arcserve.com/jp/lpg/jpsupport/down/babxo16win.aspx>

※ r16 SP2インストール後に以下の手順で「R048900」を上書きインストールします。

<http://www.casupport.jp/resources/babxo16win/tec/023010132.htm>

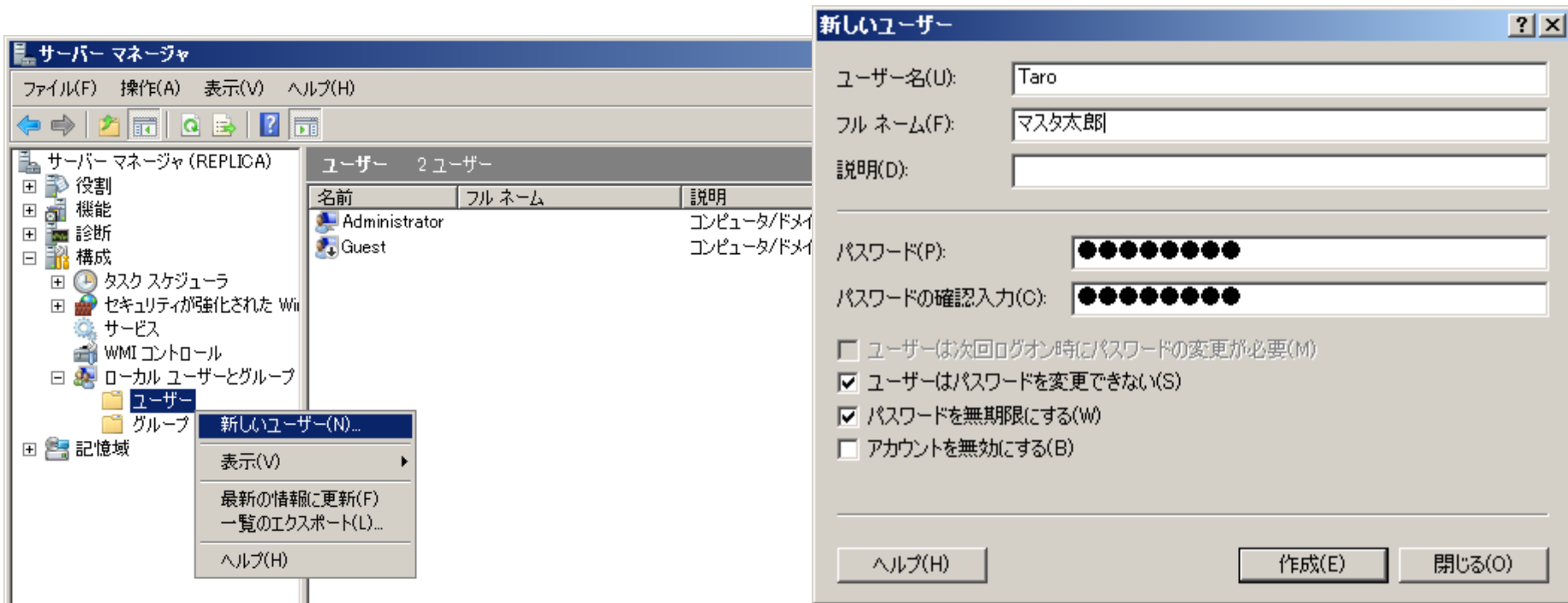
- r16 SP2はフル モジュールなので新規インストールにも上書きインストールにも使えます。

※ 新規インストールの手順は従来バージョンと同じです。

※ 上書きインストールはシナリオを停止した上で行ってください。

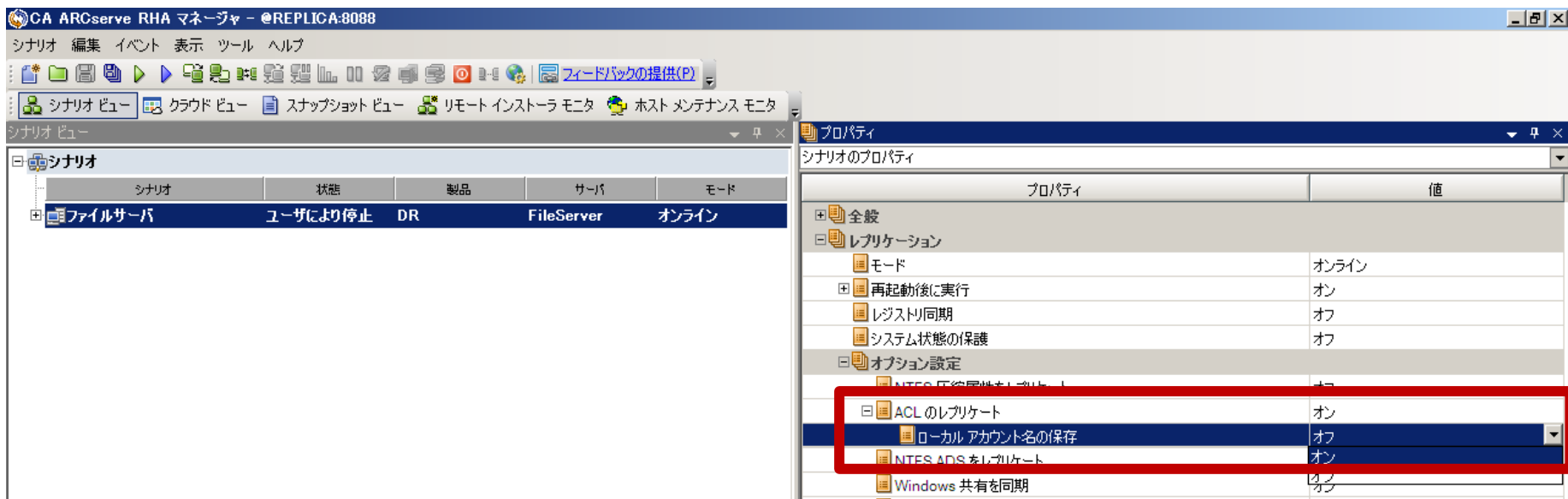
Step 2: レプリカにマスタと同名のアカウントを作成

1. レプリカサーバにログインし、マスタサーバに存在するローカルアカウント(ローカルユーザーとローカルグループ)と同名/同パスワードのアカウントを作成します。
※ 大文字/小文字も揃えて入力してください。
2. マスタサーバでローカルグループを使用している場合は、レプリカでも同じようにグループにユーザーを割り当てます(所属させます)。



Step 3: シナリオプロパティを設定

1. シナリオが停止していることを確認した上で、シナリオプロパティの [レプリケーション] - [オプション設定] - [ACLのレプリケート] - [ローカル アカウントの保存] を「オン」にします。

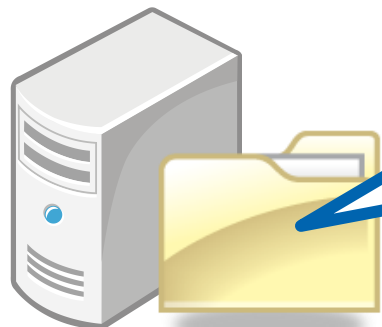


2. 設定を保存してシナリオを実行するとレプリカサーバにACLが反映されます。

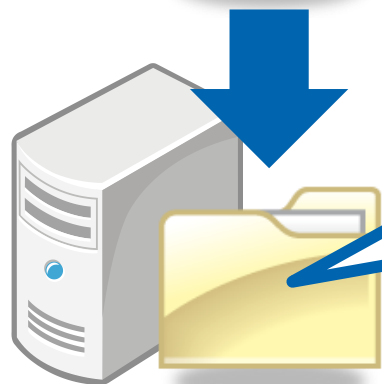
※ 設定変更後、初めての同期処理ではACLを反映させるために通常以上に時間がかかることがありますのでご注意ください。

<参考> ローカルアカウントのACLレプリケーションの仕組み

従来の方法（SIDベースのACLレプリケーション）



- s-1-5-...abc-1000 (Sato) => フルコントロール
- s-1-5-...abc-1001 (Suzuki) => 読み取り専用

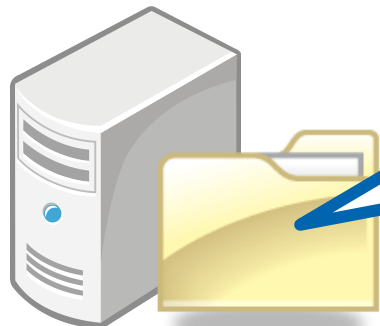


- s-1-5-...abc-1000 (不明なアカウント) => フルコントロール
- s-1-5-...abc-1001 (不明なアカウント) => 読み取り専用

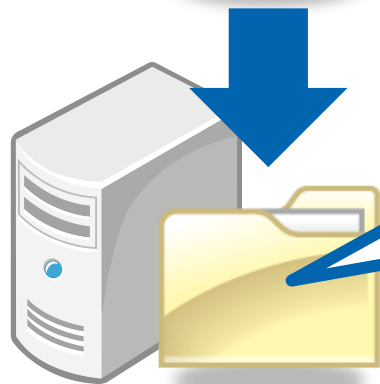
初期設定ではSIDに紐づけられたアクセス権をレプリケーションする。しかし、ローカルアカウントのSIDはサーバごとに異なり、レプリカにはマスタと同じSIDを持ったアカウントが存在しない。そのため、たとえ同名のアカウントをレプリカに作ったとしても、レプリカのフォルダにアクセスする事はできない。

<参考> ローカルアカウントのACLレプリケーションの仕組み

r16 SP2で追加された方法 (ローカルアカウント名ベースのACLレプリケーション)



- s-1-5-...abc-1000 (Sato) => フルコントロール
- s-1-5-...abc-1001 (Suzuki) => 読み取り専用



- s-1-5-...xyz-1000 (**Sato**) => フルコントロール
- s-1-5-...xyz-1001 (**Suzuki**) => 読み取り専用

[ローカル アカウントの保存] を「オン」にすると、Arcserve RHAはレプリカサーバのローカルアカウントを検索し、同じ名前のアカウントにアクセス権を割り当てるようになる。そのため、同名のアカウントはマスタと同じ権限でフォルダにアクセスできる。